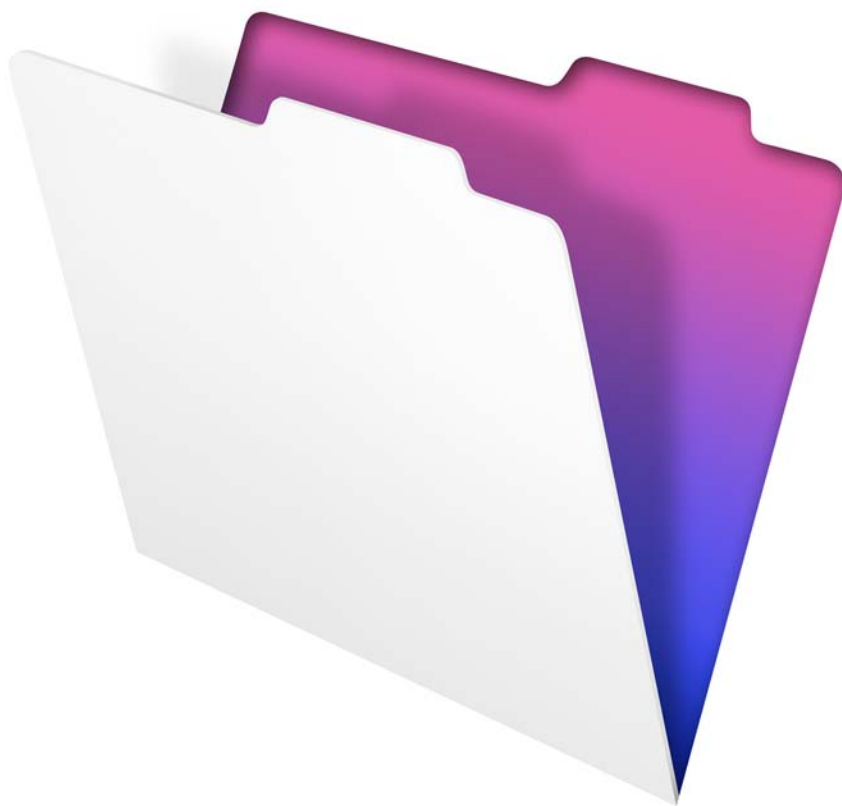


FileMaker Go[®] 13

デベロップメントガイド



© 2011-2013 FileMaker, Inc. All Rights Reserved.

FileMaker, Inc.

5201 Patrick Henry Drive

Santa Clara, California 95054

FileMaker、ファイルメーカー、及び Bento は、FileMaker, Inc. の米国及びその他の国における登録商標です。ファイルフォルダロゴ、FileMaker WebDirect 及び Bento ロゴは、FileMaker, Inc. の商標です。その他のすべての商標は該当する所有者の財産です。

FileMaker のドキュメンテーションは著作権により保護されています。FileMaker, Inc. からの書面による許可無しに、このドキュメンテーションを複製したり、頒布することはできません。このドキュメンテーションは、正当にライセンスされた FileMaker ソフトウェアのコピーがある場合そのコピーと共にのみ使用できます。

製品及びサンプルファイル等に登場する人物、企業、E メールアドレス、URL などのデータは全て架空のもので、実在する人物、企業、E メールアドレス、URL とは一切関係ありません。スタッフはこのソフトウェアに付属する「Acknowledgements」ドキュメントに記載されます。他社の製品及び URL に関する記述は、情報の提供を目的としたもので、保証、推奨するものではありません。FileMaker, Inc. は、これらの製品の性能についての一切の責任を負いません。

詳細情報については www.filemaker.co.jp をご覧ください。

第01版

目次

第 1 章

FileMaker Go 用のデータベースのセットアップ	5
FileMaker Go クライアントとの FileMaker Pro ファイルの共有	5
FileMaker ネットワーク共有の有効化	5
FileMaker Server でのファイルのホストの概要	6
データベースへの接続	6
ファイル転送について	7
データを外部に保存するオブジェクトフィールドを含むファイルの転送	8
転送したファイルへのインポートと転送したファイルからのインポート	8

第 2 章

FileMaker Go と FileMaker Pro の違い	11
FileMaker Go でサポートされていない機能	11
動作の違い	11
モード	11
ソート	11
日付と時刻ピッカー	12
カスタムメニュー (FileMaker Pro Advanced)	12
印刷	12
レコードを PDF ファイルとして保存	12
エクスポート	12
オブジェクトフィールド	12
オブジェクトの状態の表示	13
スナップショットリンクファイル	13
ポータルのスクロールバー	13
暗号化されたファイル (FileMaker Pro Advanced)	13
スライドコントロールの切り替え / 移動	13
ポップオーバー	13
キオスクモード (FileMaker Pro Advanced)	13
スクリプト処理と計算	13
スクリプトと関数の動作	13
サポートされていないスクリプトステップ	16

第 3 章

FileMaker Go 用のデータベースのデザイン	19
レイアウトのデザイン	19
レイアウトとフィールドのデザインのヒント	19
画面サイズ	20

フォントの選択	20
テキストスタイル	20
テキスト、数字、日付、時刻、およびタイムスタンプフィールドのショートカット	20
iOS デバイスでのデータ入力に関する考慮事項	20
iOS デバイスでのパフォーマンスに関する考慮事項	21
オブジェクトフィールド	21
レイアウト	21
スクリプトトリガ	21
外部キーボード	21
Web ビューア	21

第 4 章

FileMaker Go のデータベースの保護	22
保護されているファイルの開き方	22
マルチタスク実行後のログイン	22
fmreauthenticate 拡張アクセス権の使用	23
FMP プロトコルを使用したスクリプトの開き方と実行方法	23
リモートファイルとローカルファイルを保護するための推奨事項	24
ファイルに低いセキュリティが必要な場合	24
ファイルに高いセキュリティが必要な場合 — iOS デバイスごとに 1 ユーザ	24
ファイルに高いセキュリティが必要な場合 — iOS デバイスごとに複数ユーザ	24
セキュリティのヒント	25
SSL 証明書	25

第 1 章

FileMaker Go 用のデータベースのセットアップ

FileMaker Go® を使用することによって、iPhone や iPod touch、iPad 上で FileMaker Pro のデータベースをインタラクティブに操作することができます。iOS デバイス上でデータを変更するとホストコンピュータ上のデータも更新されます。逆に、ホストコンピュータ上でのデータの変更がデバイス上にも反映されます。またデータベースをデバイスに転送して「オフライン」で使用することもできます。

データベースの作成や設計、管理にはデスクトップ上の FileMaker Pro を使用します。デバイス上では、レコードの追加、変更、削除、検索、およびソート、フォーム、表、およびリスト形式でのデータの表示、ポータル、タブおよび Web ビューアでの情報の表示、署名のキャプチャ、バーコードのスキャン(スクリプト経由)、スクリプトや他のタスクの実行などの操作を行うことができます。

このガイドでは、FileMaker Go で使用できるようにデータベースをカスタマイズする方法について説明します。使用に関する詳細については、デバイス上で「FileMaker Go ヘルプ」を参照してください。初めて FileMaker Pro をお使いになる場合は、FileMaker Pro のマニュアルを参照してください。

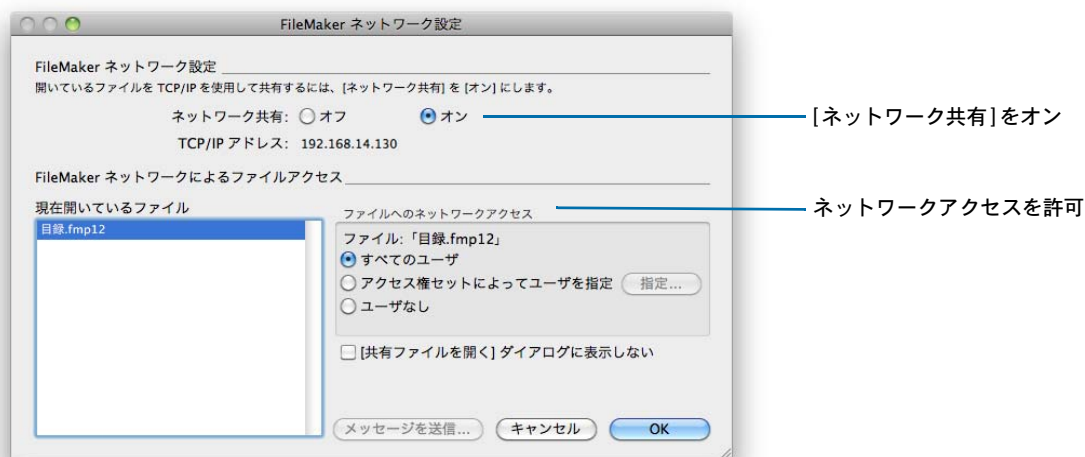
FileMaker Go クライアントとの FileMaker Pro ファイルの共有

FileMaker Pro でのデータベースを構築する。FileMaker Pro または FileMaker Server を使用してデータベースを共有する。FileMaker Go を使用してデバイス上でデータを操作する。

FileMaker ネットワーク共有の有効化

FileMaker Pro でピアツーピア共有を有効にするには次の手順を実行します。

1. FileMaker Pro でファイルを開きます。
2. [ファイル] メニューの [共有設定] > [FileMaker クライアントと共有 ...] を選択します。
3. [FileMaker ネットワーク設定] ダイアログボックスで、[ネットワーク共有] を [オン] に設定します。
4. [現在開いているファイル] の一覧から、ホストするファイルを選択します。
5. [ファイルへのネットワークアクセス] で [すべてのユーザ] または [アクセス権セットによってユーザを指定] を選択します。
6. [OK] をクリックします。



FileMaker Go クライアントのネットワーク共有を有効にするための設定

FileMaker Server でのファイルのホストの概要

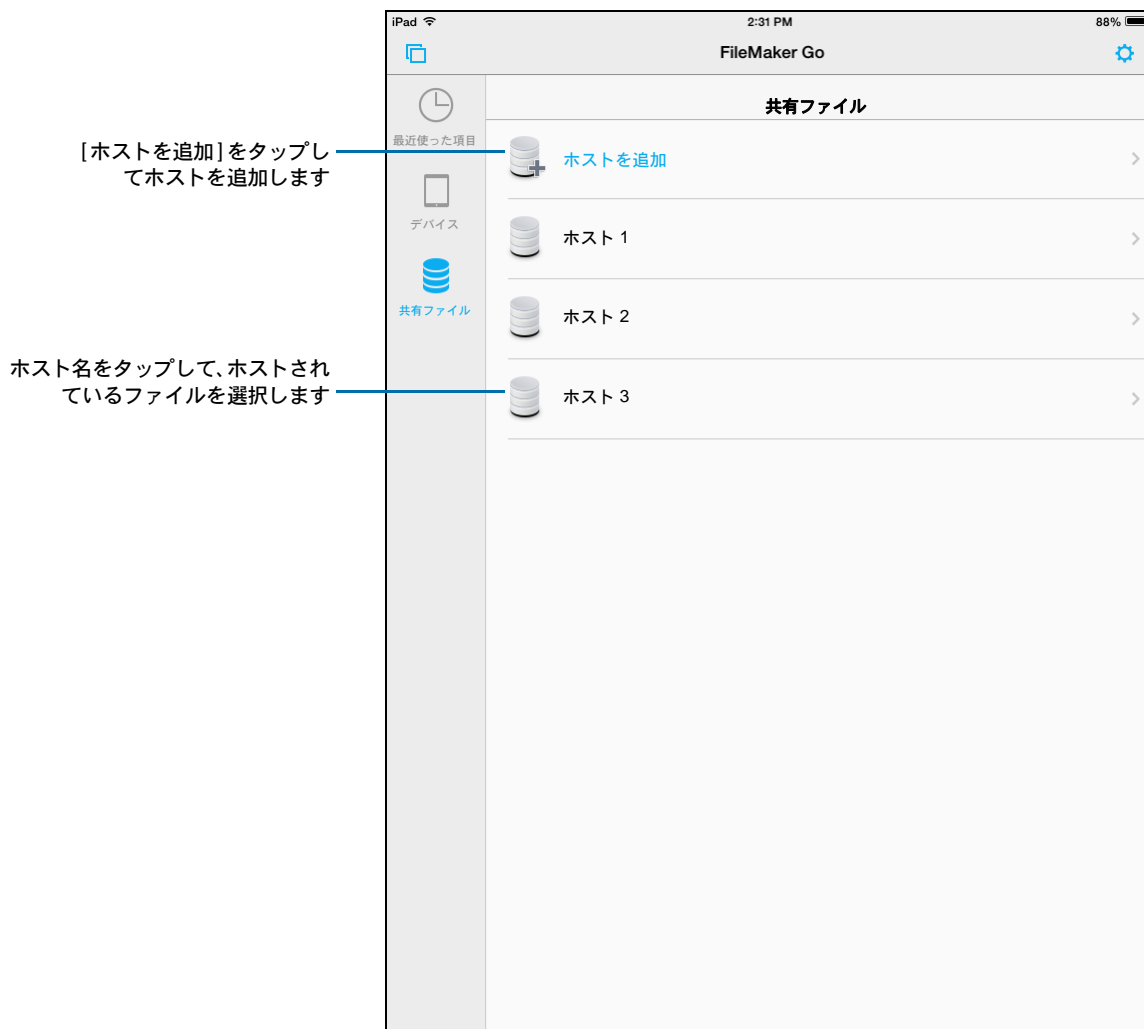
FileMaker Pro データベースファイルを共有する前に、ホストするファイルを用意します。FileMaker Server でファイルをホストするための手順の概要は次のとおりです。

1. FileMaker Pro でクライアントが共有アクセスに使用するアカウントとアクセス権セットを編集します (たとえば、[FileMaker ネットワークによるアクセス])。
2. FileMaker Pro でデータベースファイルを FileMaker Server にアップロードします。FileMaker Server へのアップロードの詳細については、「FileMaker Pro ヘルプ」を参照してください。
3. FileMaker Server で Admin Console の [アクティビティ] > [データベース] タブを使用してファイルの状態を参照し、FileMaker クライアントがファイルを使用できるかどうかを確認します。

FileMaker Server を起動すると、デフォルトデータベースフォルダおよびオプションの追加データベースフォルダ (指定されている場合) にある FileMaker Pro データベースがすべて自動的に開いてホストされます。サーバー管理の詳細については、「FileMaker Server ヘルプ」を参照してください。

データベースへの接続

ファイルを共有してホストした後、FileMaker Go でクライアントとしてそのファイルに接続することができます。データベースへの接続の詳細については、「FileMaker Go ヘルプ」を参照してください。



FileMaker Go でのホストされているデータベースへの接続

デバイスは他のクライアントと同じように fmapp 拡張アクセス権を使ってホストされているデータベースに接続します。

メモ FileMaker Go は、LDAP で一覧表示される FileMaker Server ホストにアクセスしたり、LDAP ホストの SSL 証明書を表示、および使用することはできません。

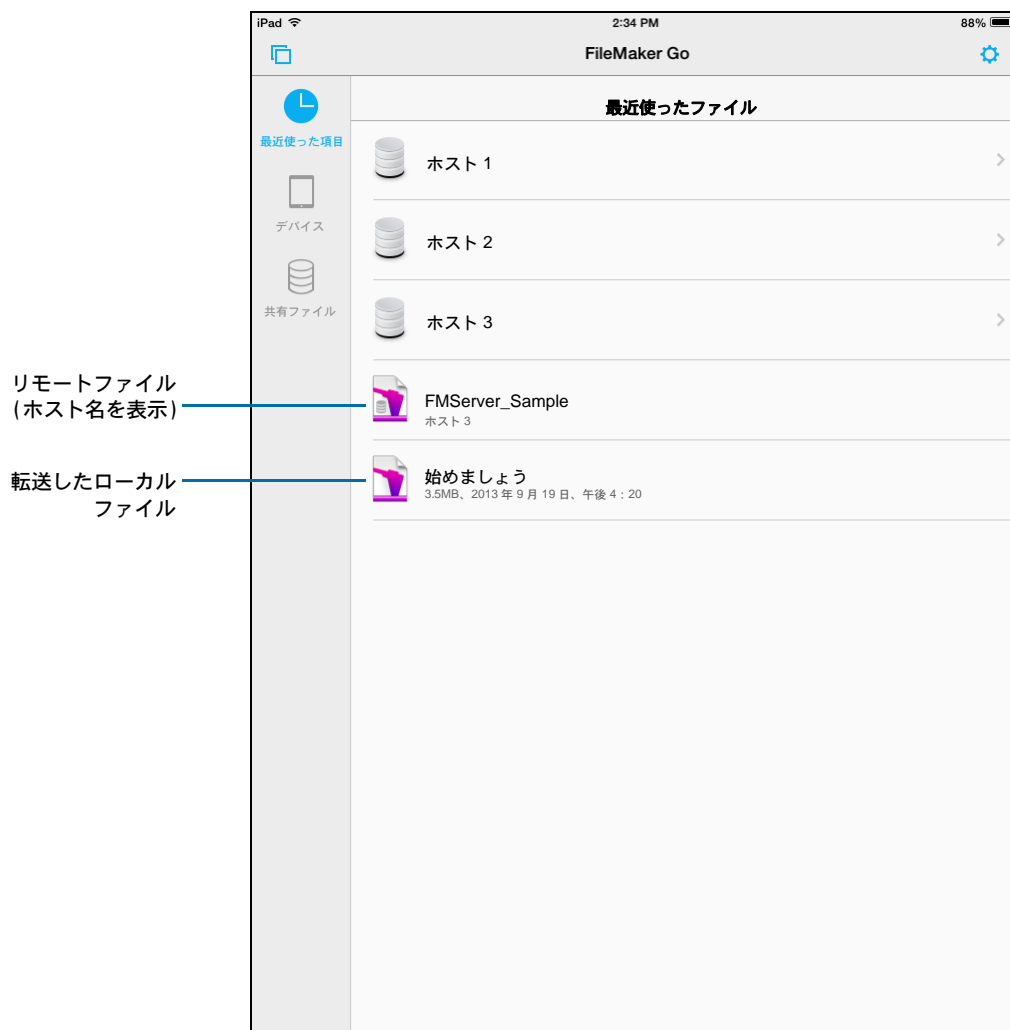
ファイル転送について

デバイスへ、またはデバイスからのファイル転送の詳細については、「FileMaker Go ヘルプ」を参照してください。

次のことに注意してください。

- iOS デバイスにファイルを転送すると、リモートファイルのコピーが作成されます。ローカルファイルのデータを変更してもリモートファイルは更新されません。FileMaker Pro を使用して、ローカルファイルのデータをホストされたファイルにインポートして更新するようにファイルを設定する方法については、8 ページの「転送したファイルへのインポートと転送したファイルからのインポート」を参照してください。

- コンピュータまたは iOS デバイスに保存されているドキュメントは、必ず定期的にバックアップを行なうことをお勧めします。FileMaker Pro データベースのバックアップの詳細については、「FileMaker Pro ヘルプ」を参照してください。



データを外部に保存するオブジェクトフィールドを含むファイルの転送

データを外部に保存するオブジェクトフィールドを含むファイルを転送するには、最初にそのオブジェクトフィールドのデータを埋め込む必要があります。まず、FileMaker Pro で [名前を付けて保存] コマンドを使用し、[すべてを含むコピー(単一ファイル)] を選択します。次にそのコピーを転送します。

転送したファイルへのインポートと転送したファイルからのインポート

[レコードのインポート] スクリプトステップを使用して、デバイス上の FileMaker Pro ファイルのデータを別の FileMaker Pro ファイルにマージすることができます。FileMaker Go は FileMaker Server または FileMaker Pro にアクセスするネットワークにつながっている必要があります。

インポートする前に、フィールドの割り当てとインポート順を設定します。インポートする場合、新しいテーブルを作成することはできません。

次のいずれかを行うことができます：

- リモートソースからローカルデータベースへのインポート
- ローカルソースからリモートデータベースへのインポート
- リモートソースからリモートデータベースへのインポート
- ローカルソースからローカルデータベースへのインポート

例 1: リモートソース(ソース.fmp12)からローカルデータベース(ターゲット.fmp12)にインポートする

1. FileMaker Pro でソース.fmp12 とターゲット.fmp12 を開きます。
2. ターゲット.fmp12 で「リモートからインポート」スクリプトを作成します。
例:レコードのインポート [ダイアログなし; 「ソース.fmp12」; 既存のレコードを更新; シフト JIS]
そして使用しているマシンの IP アドレスでソースファイルへのパスを設定します。
例:fmnet:/192.168.10.10/ソース.fmp12
3. インポート順を指定します。
4. ターゲット.fmp12 を閉じます。
5. ターゲット.fmp12 を FileMaker Go に転送します。
6. FileMaker Go でターゲット.fmp12 を開いて、「リモートからインポート」スクリプトを実行します。
ローカルデータベースのデータが、リモートデータベースのデータで更新されます。

例 2: ローカルソース(ソース.fmp12)からリモートデータベース(ターゲット.fmp12)にインポートする

1. ソース.fmp12 を FileMaker Go に転送します。
2. FileMaker Pro でターゲット.fmp12 を開きます。
3. ターゲット.fmp12 で「リモートへインポート」スクリプトを作成します。例:
変数を設定 [\$ファイルパス; 値:Get(ドキュメントパス) & "ソース.fmp12"]
レコードのインポート [ダイアログなし; 「\$ファイルパス」; 追加; シフト JIS] デバイス上のソースファイルへのパスは file:\$ファイルパスです。
4. [スクリプトの編集]ダイアログボックスで[レコードのインポート]スクリプトステップを選択して、[インポート順の指定]を選択します。
[フィールドデータのインポート順]ダイアログボックスにソースファイルが表示されない場合は、[データソースを指定]を選択します。[ファイル指定]ダイアログボックスで、[ファイルタイプ]に[FileMaker ファイル]を選択します。次に、ソース.fmp12 への別のパスをパスリストに追加します。例:
file:\$ファイルパス
file:ソース.fmp12
5. FileMaker Go で、リモートからターゲット.fmp12 を開きます。

6. 「リモートヘインポート」スクリプトを実行します。

FileMaker Go でターゲット .fmp12 を使用して、デバイス上のソース .fmp12 のデータがホストコンピュータ上のターゲット .fmp12 に追加されます。

ヒント [フィールドデータのインポート順] ダイアログで [配置順: 最後に使用した順序] を選択した場合、1 度インポートが完了した後はフィールドの割り当てが保持されます。file: ソース .fmp12 を参照する必要はなくなります。

第 2 章

FileMaker Go と FileMaker Pro の違い

この章では、FileMaker Go と FileMaker Pro の違い、および FileMaker Go for iPhone と FileMaker Go for iPad の違いについて説明します。

FileMaker Go でサポートされていない機能

FileMaker Go では次の FileMaker Pro の機能は使用できません：

- テーブル、フィールド、リレーションシップ、データソース、およびアクセス権などのデータベーススキーマの作成と変更
- レイアウト、スクリプト、値一覧、カスタムメニューなどのデータベース構造の作成と変更
- インポート*
- .fmp12、XML、または Excel .xls 形式へのエクスポート
- スペルチェック
- 外部関数
- プラグイン
- ファイルのホスト

* FileMaker Go バージョン 1.1.1 以降では、1 つの FileMaker Pro ファイルから別の FileMaker Pro ファイルへのインポートがサポートされています。

動作の違い

モード

FileMaker Go では、レイアウトモードとプレビューモードはサポートされていません。ただし、PDF 出力して FileMaker Go 内で PDF を表示することで、レコードをプレビューすることができます。

ソート

表形式で列ヘッダをタップしてレコードをソートする場合、昇順、降順、未ソートのいずれかのソート順を使用できます。[レコードのソート] 画面を使用して値一覧でフィールドをソートしてある場合、列ヘッダをタップすれば、ソート順 [値一覧] を使用できます。

デフォルトでは、[値一覧] は昇順でレコードをソートします。[値一覧] での初回ソート後に再度列ヘッダをタップすると、レコードが降順でソートされます。このフィールドが以前に複数のフィールドを使ったソートに使用されていた場合、そのフィールドのソート順は変化しますが、他のフィールドの以前のソート順は変化しません。以前のソート条件をクリアするには、列ヘッダを複数回数タップしなければならないことがあります。

日付と時刻ピッカー

FileMaker Go とデスクトップクライアントには、次のような違いがあります：

- FileMaker Go の時刻/タイムスタンプピッカーでは、秒または小数値は使用できません。フィールドに秒を入力することができます。スクリプト処理、または計算された時刻では、デバイス上で秒を表示します。
- iPad では、日付ピッカーがアクティブな場合はキーボードもアクティブのままとなります。

カスタムメニュー (FileMaker Pro Advanced)

FileMaker Go では、次の機能は使用できません：

- デスクトップで削除したメニュー項目の削除。メニュー項目は FileMaker Go に表示されますが、無効になります。
- 既存の FileMaker Go メニュー項目に割り当てないメニュー項目の追加。
- カスタムメニューによるクイック検索メニュー項目の上書き。クイック検索動作の上書きは可能です。
- カスタムメニューによるレコード保存およびレコード終了の上書き。
- カスタムメニュータイトルでのアンパサンド(&)の表示。

印刷

- FileMaker Pro でファイルに設定した印刷オプションは、FileMaker Go の同じファイルの印刷オプションには適用されません。逆の場合も同様です。
- FileMaker Pro でレイアウトにページ余白を指定しない場合は、FileMaker Go ではプリンタのデフォルト(初期設定)の余白が使用されます。この余白は、プリンタやプリンタドライバによって異なる可能性があります。ラベルや定型フォームへ印刷する場合のように、正確な間隔設定が必要なレイアウトを印刷する場合は、必ずページ余白を指定してください。

レコードを PDF ファイルとして保存

レコードを PDF ファイルとして保存する場合、FileMaker Go では PDF ファイル名にウィンドウの名前を使用します。

エクスポート

デフォルトでは、.xlsx 以外のすべての手動エクスポート操作は UTF-8 を使用します。.xlsx は UTF-16 を使用します。

次の操作をする場合は、[レコードのエクスポート] スクリプトステップを使用する必要があります：

- 現在のレイアウトにないフィールドを選択する。
- 出力ファイルの文字セットを設定する。

オブジェクトフィールド

FileMaker Go では、次の機能は使用できません：

- インспекタの [データの書式設定] のオプション [イメージ] または [インタラクティブコンテンツ] (オブジェクトフィールドの内容は、他の iOS オーディオ、ビデオ、PDF ファイルなどと同じく iOS によって表示されます)。
- データを外部に保存するオブジェクトフィールドの設定。

オブジェクトの状態の表示

FileMaker Go ではオブジェクトをポイントしたときの状態は表示されません。

スナップショットリンクファイル

プレビューモードで作成されたスナップショットリンクファイルを FileMaker Go で開く場合、そのファイルはブラウズモードで表示されます。

ポータルのスクロールバー

FileMaker Pro の [ポータル設定] ダイアログボックスで [垂直スクロールバーを表示] オプションが有効になっている場合、FileMaker Go ユーザは iOS のスクロールバーを使用してポータル内をスクロールできます。

暗号化されたファイル (FileMaker Pro Advanced)

FileMaker Go でファイルの暗号化を有効または無効にすることはできません。暗号化を有効または無効にするには、FileMaker Pro Advanced の Developer ユーティリティを使用します。

スライドコントロールの切り替え / 移動

FileMaker Pro で [スワイプジェスチャを有効にする] または [ナビゲーションドットを表示] が有効な場合、FileMaker Go ではスライドコントロールをスワイプして前または後ろに移動することができます。

ポップオーバー

FileMaker Go では、レイアウトポップオーバーの外側をタップしたとき、およびスクロールまたはズームを開始したときにポップオーバーが閉じます。

キオスクモード (FileMaker Pro Advanced)

iOS デバイスでキオスクソリューションを実行するように設計することは可能ですが、2本指でスワイプしてレコード間を移動することはできません。キオスクソリューションの作成の詳細については、「FileMaker Pro ヘルプ」を参照してください。

スクリプト処理と計算

重要 テストしてスクリプトステップがサポートされることを確認します。

スクリプトと関数の動作

- 現在実行中のスクリプトを中止するには、画面の任意の場所をタップして、スクリプトの中止を確認します。中止を確認しないと数秒後に確認が閉じられスクリプトは実行を続けます。
- Get (システムプラットフォーム) をデバイスで実行すると、3 が返されます。
- [メールを送信] では、[ダイアログなしで実行] を使用することはできません。デバイス上にメールが表示されるため、これを手動で送信できます。SMTP から送信される場合を除きます。
- デバイス上でキーボードが非表示になっている場合、[全てを選択] と [選択範囲を設定] スクリプトステップを実行してもテキストは強調表示されません。

- Google マップの URL を使用して [URL を開く] スクリプトステップを実行すると、ブラウザが開きます。その後、[Safari で開く] を選択すると、マップアプリケーションが開きます。
- スクリプトにウインドウを非表示にするコマンドが含まれる場合、FileMaker Go ではウインドウは非表示になりませんが、表示されている開かれたウインドウの順序が変更されます。
- 別のアプリケーションに切り替えると、FileMaker Go は中断状態になり、スクリプトも中断されます。FileMaker Go に戻ると、アプリケーションとスクリプトがそのままの状態でも再開されます。ホストされているファイルの場合、FileMaker Go が中断状態の間にスクリプトが動作しているデータセットのいずれかのレコードが変更されるとスクリプトも中断されます。変更されたレコードがない場合、スクリプトは中断なく実行されます。

FileMaker Go の中断状態が一定期間を超え、iOS によってアプリケーションが強制終了されると、FileMaker Go は休止状態ファイルの生成を試みます。FileMaker Go を再起動したときにこの休止状態ファイルを使用し、終了前に開かれていたファイルが再度開かれます。休止状態ファイルが生成されるには、FileMaker Go から別のアプリケーションに切り替えたときに [ユーザによる強制終了を許可] が [オフ] に設定されたスクリプトが実行されている必要があります。

- GetLayoutObjectAttribute 関数は、グラフの content 属性に PNG および JPEG イメージのみを返します。
- [新規ウインドウ] スクリプトステップでは、[詳細なスタイルを指定] オプションは使用できません。
- Location 関数と LocationValues 関数は FileMaker Pro で設定しますが、これらはデバイスで使用するために設計されています。
- [ファイルを挿入] スクリプトステップでは、[格納オプション] または [表示] ダイアログオプションは使用できません。
- [アプリケーションを終了] スクリプトステップではすべてのファイルが閉じられますが、FileMaker Go は終了されません。

Get (アプリケーションバージョン) 関数

iPhone または iPod touch で Get (アプリケーションバージョン) を実行すると、Go x.x.x が返されます。iPad で Get (アプリケーションバージョン) を実行すると、Go_iPad x.x.x が返されます。FileMaker Server では、Admin Console に Go x.x.x または Go_iPad x.x.x と表示されます。

[フィールド内容の全置換] スクリプトステップ

[フィールド内容の全置換] を使ったスクリプトでは、FileMaker Go で置換対象のフィールドとデータを指定するようにユーザに求めるメッセージを表示することはできません。[ダイアログなしで実行] が選択されていない場合、[フィールド内容の全置換] スクリプトステップは実行されません。

[名前を付けて保存] スクリプトステップ

オプション [最適化コピー (サイズ小)]、[データなしのコピー]、[すべてを含むコピー (単一ファイル)] は、FileMaker Go で [名前を付けて保存] スクリプトを実行する場合は使用できますが、FileMaker Go で、[保存/送信] > [データベース...] を手動でタップする場合は使用できません。スクリプトステップの場合、[すべてを含むコピー (単一ファイル)] オプションは [最適化コピー (サイズ小)] オプションと同じです。

[レコードを PDF として保存] スクリプトステップ

[レコードを PDF として保存] スクリプトステップに出力ファイルパスが指定されていない場合、FileMaker Go はウインドウの名前を使用して PDF ファイルを保存します。

一部の [レコードを PDF として保存] スクリプトステップオプションは、次の場合はサポートされません：

- 既存の PDF にレコードを追加する
- Acrobat バージョンを選択する
- [セキュリティ] タブで、[印刷] および [編集] オプションを選択する
- 画面読み上げソフトウェアを可能にするオプションの選択を解除する
- [初期表示形式] タブのオプション

レコードをスナップショットリンクとして保存スクリプトステップ

スナップショットリンクには、レイアウト、表示、ソート順、モード、ツールバー表示などの、現在の対象レコードの ID が含まれます。

[レコードをスナップショットリンクとして保存] スクリプトステップに出力ファイルパスが指定されていない場合、FileMaker Go はファイルの名前を使用してスナップショットリンクファイルを保存します。

次の条件を満たしている場合は複数のデバイスでスナップショットリンクを開くことができます：

- FileMaker Pro ファイルが各デバイスに保存されている。
- スナップショットリンクファイルが FileMaker Go で作成されている。
- 元の FileMaker Pro ファイルとそのファイルのローカルコピーが同じファイル名で、同じ相対パスの場所にある。

[印刷設定] スクリプトステップ

FileMaker Go で [印刷設定] スクリプトステップを実行すると、ダイアログを表示せずに、FileMaker Go の [印刷設定] ダイアログの用紙サイズ、印刷方向、および拡大縮小率のオプションが設定されます。

[ダイアログなしで実行] オプションは、FileMaker Go の [印刷設定] スクリプトステップには適用されません。

[印刷] スクリプトステップ

[ダイアログなしで実行] オプションが選択されていない場合、[印刷] スクリプトステップを実行すると FileMaker Go に [印刷設定] ダイアログが表示されます。ダイアログで設定を選択し、[印刷] をタップしてファイルを印刷できます。

[印刷] スクリプトステップでは [最大画像 DPI] オプションは利用できませんが、印刷時に [印刷設定] ダイアログで解像度を選択できます。

印刷部数と両面印刷オプションに対する [印刷] スクリプトの設定は、FileMaker Go の印刷設定には適用されません。

[フィールド内容のエクスポート] スクリプトステップ

FileMaker Pro ではテキストが UTF-16 でエクスポートされますが、FileMaker Go では UTF-8 でエクスポートされます。

[共有ファイルを開く]スクリプトステップ

[共有ファイルを開く]スクリプトステップでリモートファイルを開くと、他のホストと共に最近使用されたホストがアルファベット順に表示されます。

メモ

- デフォルトでは、スクリプトステップで作成されたファイルは [デバイス] リストに表示され、ドキュメントフォルダに保存されます。テンポラリフォルダにファイルを保存するには、[変数を設定]スクリプトステップを使用して、スクリプトステップの出力ファイルパスとファイル名を指定するための変数を作成します。

次の例を使用して、ファイルを添付した電子メールを作成することができます。

変数を設定 [\$出力; 値: Get (テンポラリパス) & "sample.pdf"]

レコードを PDF として保存 [ダイアログなし; 「\$出力」; 対象レコード]

メールを送信 [電子メールクライアント経由で送信; 宛先: "linda@glolda.com"; トピック: "請求書"; メッセージ: "テスト"; 「\$出力」]

- デフォルトでは、スクリプトステップを実行すると、FileMaker Go によって新しい出力ファイルが作成されます。スクリプトの実行を続けると、各ファイル名の最後に番号が追加されます。たとえば、サンプルファイルで初めて [レコードを PDF として保存]スクリプトステップを実行すると、出力ファイル名は sample.pdf になります。次回に同じスクリプトを実行すると、ファイル名は sample 1.pdf になります。

複数のコピーを保存せずに、既存の出力ファイルを新しいファイルに置き換える場合は、スクリプトにファイルパスを追加します (file:ファイル名 または filemac:ファイル名)。たとえば、[出力ファイルの指定]ダイアログボックスに「file:sample.pdf」または「filemac:sample.pdf」と入力すると、このスクリプトを実行するたびに、ドキュメントフォルダ内の sample.pdf ファイルは新しいファイルに置き換えられます。

次の例では、レコードが sample.pdf という名前の PDF ファイルで保存され、新しいファイルが作成されるか、既存のファイルが上書きされます。

レコードを PDF として保存 [ダイアログなし; 「sample.pdf」; 対象レコード]

サポートされていないスクリプトステップ

FileMaker Go では一部のスクリプトステップがサポートされません。

重要 サポートされないスクリプトステップを適切に処理しないでスクリプトを実行すると、予想外の動作やデータの損傷の原因となる可能性があります。

エラーコード 3 を返す

次のスクリプトステップは、エラーコード 3「コマンドが使用できません」を返します。Get (最終エラー)を使用して、このエラーコードをチェックします。

FileMaker Go に、これらのスクリプトステップの警告は表示されません。

分類	スクリプトステップ
編集に関連するスクリプトステップ	検索/置換を実行
フィールドに関連するスクリプトステップ	索引から挿入
ファイルに関連するスクリプトステップ	<ul style="list-style-type: none">■ 新規作成■ ファイルを変換■ マルチユーザ設定■ ファイルの修復
その他のスクリプトステップ	<ul style="list-style-type: none">■ 書式設定バーを許可■ 読み上げ (Mac)■ プラグインファイルのインストール■ DDE コマンドを送信 (Windows)■ AppleScript を実行 (Mac)■ SQL を実行■ Event を送信 (Mac)■ Event を送信 (Windows)
切り替え / 移動に関連するスクリプトステップ	プレビューモードに切り替え
メニュー項目を開くためのスクリプトステップ	<ul style="list-style-type: none">■ 保存済み検索を開く■ ファイルオプションを開く■ オブジェクトの管理を開く■ データベースの管理を開く■ データソースの管理を開く■ レイアウトの管理を開く■ スクリプトの管理を開く■ テーマの管理を開く■ 値一覧の管理を開く■ 検索/置換を開く■ 共有設定を開く■ FileMaker Server にアップロード
レコードに関連するスクリプトステップ	<ul style="list-style-type: none">■ レコードのインポート (FileMaker ファイル間でのインポートはサポートされません)■ レコードのエクスポート (.csv、.dbf、.xlsx、.htm、.mer、.tab ファイル形式がサポートされます)■ レコードを Excel として保存

分類**スクリプトステップ**

スペルチェックに関連するスクリプトステップ

- 選択部分をスペルチェック
- 現レコードをスペルチェック
- 対象レコードをスペルチェック
- 単語を修正
- スペルチェックオプション
- 辞書を選択
- ユーザ辞書を編集

ウインドウに関連するスクリプトステップ

- ウインドウの移動/サイズ変更
 - 全ウインドウを整列
 - メニューバーの表示切り替え
 - テキスト定規の表示切り替え
-

第 3 章

FileMaker Go 用のデータベースのデザイン

この章では、iOS デバイスで使用されるデータベースをデザインする場合の考慮事項について説明します。

レイアウトのデザイン

レイアウトをデザインする場合、iOS デバイスでは次の操作は実行できないことにご注意ください：

- 表示形式やレイアウトの削除
- フィールドの追加または削除
- [レイアウト]メニューで表示するように設定されていないレイアウトへの切り替え(ナビゲーションボタンを使用する場合を除く)
- 現在の日付、時刻またはタイムスタンプを挿入するメニューの使用(ボタンまたはスクリプトを使用する場合を除く)
- 値一覧の定義と割り当て(ドロップダウンリストとポップアップメニューで [値一覧の編集を許可] がサポートされている場合)
- ポップアップヘルプの表示
- タブコントロール名で「...」などのリーダーの表示
- レイアウトオブジェクトでの影の表示

デバイスでの一般的なデザインに関する考慮事項については、Apple Developer Web サイトを参照してください。

レイアウトとフィールドのデザインのヒント

- [新規レイアウト/レポート]アシスタントで、いずれかのタッチデバイスレイアウトを選択します。
- ユーザがフィールドの外側をタップしてデータを確定できるように、十分な非アクティブスペースを残しておきます。
- イメージのサイズをできるだけ小さくします。
- イメージに PNG ファイル形式を使用します。
- デバイスの表示領域内の作業を容易にするため、デザイン用の画面ステンシルを使用します。
- FileMaker Pro の一部のテーマでは Tahoma フォントが使用されます。このフォントは iOS ではサポートされていないため、FileMaker Go では Helvetica に変換されます。
- [テーマの変更]ダイアログボックスで、デバイス用に設計されたタッチテーマのいずれかを選択します。タッチテーマでは MS P ゴシックとヒラギノ角ゴ ProN W3 のフォントが使用されます。
- Starter Solution で、デバイス用にデザインされたレイアウトを適用します。
- フォーム上のフィールドを縦方向に等間隔にします。
- FileMaker Go は、VoiceOver を使用したアクセシビリティをサポートしています。アクセシビリティソリューションの作成の詳細については、「FileMaker Pro ヘルプ」を参照してください。

- デバイスで使用する予定のファイルに FileMaker Pro のテーマを適用する場合は、フィールドラベルの間隔、フィールドの高さ、ポータル、タブの外観をデバイス上でチェックしてください。
- iOS スタイルでグループ化されたフィールドを作成するには、インスペクタの [外観] タブで、四隅の角の半径を指定して角丸正方形または正方形にします。

画面サイズ

デザインを縦方向と横方向の両方に対して最適化するには、レイアウトの幅を縦方向の画面の幅以下にします。こうすることで、ユーザがデータを表示するために左右にスクロールする必要がなくなります。

最も重要な情報は、縦方向と横方向の両方で共有される画面領域内に表示するようにします。

FileMaker Pro の自動サイズ変更の設定を使用して、縦方向と横方向のレイアウトを最適化します。

フォントの選択

フォントを選択する場合、デザイン対象のプラットフォームを考慮に入れます。フォントによっては、異なるプラットフォームで異なる動作をします。

デスクトップやデバイス上でサポートされないフォントもあります。また iOS でサポートされるフォントは将来変更される可能性があります。使用を予定しているすべてのプラットフォームで必ずデータベースをテストするようにしてください。

テキストスタイル

iOS では、太字、斜体、下線、タイトル、大文字、小文字、単語下線(下線として表示)、二重下線のテキストスタイルがサポートされます。

iOS では、強調表示、字消し線、字間狭く、字間広く、スモールキャップ、上付き、下付きはサポートされていません。

テキスト、数字、日付、時刻、およびタイムスタンプフィールドのショートカット

インスペクタの [データ] タブで、テキスト、数字、日付、時刻、タイムスタンプの各フィールドに FileMaker Go で値をすばやく入力できるように特定の種類のキーボードを設定できます。詳細については、「FileMaker Pro ヘルプ」を参照してください。

iOS デバイスでのデータ入力に関する考慮事項

- タブ順ではフィールドのみがサポートされます。Tab、Return キーを使用して次のフィールドに移動するように設定できますが、Enter キーを設定することはできません。
- デバイス上の索引からフィールドに値を挿入することはできません。[既存の値を使用してオートコンプリート] を行うこともできません。
- 段落の行揃え、行間、インデントは、オブジェクトフィールドで正しく表示されない場合があります。こうした外観に関する問題を防ぐには、オブジェクトフィールドで中央揃えを使用してください。
- キーストロークを認識するためのスクリプトトリガが設定されているテキストフィールドでは、自動修正は機能しません。
- FileMaker Go で特定のテキストフィールドを編集すると、そのフィールドのすべてのスタイルが標準テキストに変わります。

- 1度に編集できるテキストサイズは64Kです。
- アジア言語: 縦書き文字とふりがなは使用できません。キーストロークを認識するためのスクリプトトリガが設定されているテキストフィールドでは、IME (input method editor) が機能しません。

iOS デバイスでのパフォーマンスに関する考慮事項

オブジェクトフィールド

リモートファイル内のイメージを含むオブジェクトフィールドの場合、デバイスにイメージが送信される前にサーバーによってそのイメージが拡大/縮小されます。ローカルファイル内のイメージを含むオブジェクトフィールドの場合、デバイスがそのイメージを処理します。パフォーマンスを向上させる場合、より小さいイメージを使用します。

レイアウト

多数のオブジェクトを使用して1つのレイアウトを作成する代わりに、最小限のオブジェクトで複数のレイアウトを作成します。

レイアウトのデザインの詳細については、19 ページの「レイアウトとフィールドのデザインのヒント」を参照してください。

スクリプトトリガ

パフォーマンスを向上させるため、スクリプトトリガには簡潔なスクリプトを使用します。

外部キーボード

外部キーボードでは、一部のキーストロークの動作が異なります。

機能	FileMaker Go での動作
Tab キー	オンスクリーンキーボードを表示するフィールドタイプで使用可能 Shift-Tab キーは使用不可
取り消し、やり直し、カット、コピー、ペースト、すべてを選択キー	使用可能
レコード間を移動するためのキーストローク (例: control-下向矢印キー)	使用不可
修飾キー (option や alt など)	使用不可
イジェクトキー	オンスクリーンキーボードの表示切り替え
矢印キー	値一覧、日付/時刻/タイムスタンプピッカーでは使用不可

Web ビューア

デバイスに十分なメモリがあれば、複数のアクティブな Web ビューアを開くことができます。

デバイスのメモリ	アクティブな Web ビューアの最大数
256 MB	1
512 MB	3
1 GB	4

第 4 章

FileMaker Go のデータベースの保護

この章では、保護されたファイルの開き方とマルチタスク実行後のログインについて説明します。また、データベースのセキュリティ保護についても説明します。

保護されているファイルの開き方

保護されているファイルをユーザが開こうとすると、アカウントとパスワードの指定を求めるダイアログボックスが表示されます。FileMaker Go は指定された順序で次の設定をチェックし、保護されたファイルを開く方法を判別します。これらすべての設定が使用されない場合、ユーザはログイン情報を入力してファイルを開く必要があります。

1. URL プロトコル

FileMaker Pro では、共有されているリモートの FileMaker Pro ファイルを開くために、URL で FMP プロトコルを使用することができます。23 ページの「FMP プロトコルを使用したスクリプトの開き方と実行方法」を参照してください。

2. 自動的にログインするための [ファイルオプション] ダイアログボックス

FileMaker Pro では、データベースを開くときに特定のアカウントとパスワードを使用して自動的にログインするために [ファイルオプション] ダイアログボックスを使用することができます。

3. ユーザによる手動の変更

FileMaker Go では、ユーザがファイルを開くときにファイル一覧でファイル名をタッチしたままにすることで、デフォルトのログイン情報を一時的に無視することができます。ファイル名から指を放すと、別のアカウント名とパスワードを入力するためのダイアログボックスが開きます。

マルチタスク実行後のログイン

デバイスで [ホーム] ボタンを押すと、FileMaker Go はバックグラウンドに移動してファイルの状態を保存します。また、着信電話を受けた場合も FileMaker Go はファイルの状態を保存します。FileMaker Go に戻ると、そのままの状態で再開されます。

一定期間バックグラウンド状態だった場合に再認証を要求するようにファイルを設定できます。23 ページの「fmreauthenticate 拡張アクセス権の使用」を参照してください。

FileMaker Go がバックグラウンドに移動した場合、次の場合を除き、ファイルに戻るにはアカウントとパスワードを再入力する必要があります。

- ゲストアカウントを使用している場合。
- 使用したアカウント名とパスワードが、FileMaker Pro の [ファイルオプション] ダイアログボックスで設定したアカウント名とパスワードに一致する場合。
- fmreauthenticate 拡張アクセス権で指定した制限時間内にファイルに戻った場合。
- fmreauthenticate 拡張アクセス権のないアカウントを使用している場合。

メモ これらの条件は、旧バージョンの FileMaker Pro から変換されたファイルにも適用されます。

fmreauthenticate 拡張アクセス権の使用

一定期間 FileMaker Go が使用されていない場合にユーザに再認証を要求する設定を制御するには、fmreauthenticate 拡張アクセス権を使用します。

このアクセス権を使用すると、FileMaker Go がバックグラウンドに移動してから指定の制限時間を超えた場合、ユーザはアカウント名とパスワードを再入力する必要があります。ユーザが誤ったアカウント名とパスワードを5回入力すると、FileMaker Go によってファイルが閉じられます。

FileMaker Pro で作成された新しいアクセス権セットには、デフォルトでキーワード「fmreauthenticate10」が含まれます。

fmreauthenticate 拡張アクセス権は、iOS 警告が表示された場合やスリープ状態になった場合など、ユーザがアプリケーションのコンテキストから移動した場合は常にアクティブになります。

旧バージョンの FileMaker Pro から変換されたファイルの場合：

- fmrestorelogin 拡張アクセス権がない場合、FileMaker Pro によってキーワード「fmreauthenticate0」が追加されます。
- fmrestorelogin 拡張アクセス権がある場合、FileMaker Pro によってそのアクセス権が削除されます。

FMP プロトコルを使用したスクリプトの開き方と実行方法

FileMaker Pro では、共有されているリモートの FileMaker Pro ファイルを開くために、URL で FMP プロトコルを使用することができます。例：

```
[<] [URL:] FMP://[[アカウント:パスワード@] ネットワークアドレス]/データベース名 [>]
```

またリモートの FileMaker Pro ファイル、休止状態のファイル、デバイス上のローカルデータベースファイルで指定されたスクリプトを開いて実行したり、他のアプリケーションと通信するために FMP プロトコルを使用することもできます。

例 1: リモートファイルの開き方

IP アドレスが 192.168.10.0 のホストマシンで「ListClients」というスクリプトを含む Clients.fmp12 という名前のファイルを開きます。

```
FMP://192.168.10.0/Clients.fmp12?script=ListClients
```

例 2: ファイルの開き方

「ListClients」というスクリプトを含む Clients.fmp12 という名前のファイルを再度開きます。

```
fmp://%24/Clients.fmp12?script=ListClients
```

メモ FMP を使用すると、FileMaker Go はまず休止状態のすべてのファイルを復元してから、FMP を処理します。

例 3: ローカルファイルの開き方

デバイス上で「ListClients」というスクリプトを含む Clients.fmp12 という名前のローカルファイルを開きます。

```
fmp://%7e/Clients.fmp12?script=ListClients
```

例 4: スクリプトにパラメータを渡して、ローカル変数を定義する

IP アドレスが 192.168.10.0 のホストマシンで「ListClients」というスクリプトを含む Clients.fmp12 という名前のファイルを開きます。TopClients のパラメータを指定し、ローカル変数 \$NumberToList に 10 の値を指定します。

```
FMP://192.168.10.0/Clients.fmp12?script=ListClients&param=TopClients&$NumberToList=10
```

メモ

- ファイル名では、大文字と小文字が区別されます。スクリプト名では、大文字と小文字は区別されません。
- ファイル名の拡張子「.fmp12」は必須ではありません。
- 同一の FMP プロトコルで、複数の変数を定義することができます。
- リンクにスペースが必要な場合は、すべてのスペースを「%20」に置き換えます。

アドレスでアカウントとパスワードを指定することができます(休止状態のファイルを開く場合を除く)。

リモートファイルとローカルファイルを保護するための推奨事項

ファイルに低いセキュリティが必要な場合

- FileMaker Server によって共有されるファイルのサーバーアイドル時間を長く設定します。
- fmreauthenticate 拡張アクセス権を使用して、再ログインを要求するまでの時間(分)を長くします。
- fmreauthenticate 拡張アクセス権を使用しないようにします。

ファイルに高いセキュリティが必要な場合 – iOS デバイスごとに 1 ユーザ

リモートファイル

次の時間を指定するときに、セキュリティのニーズとユーザの利便性のバランスを取るようにします:

- パスコードを要求するまでの時間
- サーバーアイドル時間
- fmreauthenticate 拡張アクセス権を使用して再ログインを要求するまでの時間

ローカルファイル

- 紛失したデバイスや盗難されたデバイスのファイルにアクセスできないように、特別な予防措置を講じます。
- fmreauthenticate 拡張アクセス権を使用して、不正アクセスを最小化します。

ファイルに高いセキュリティが必要な場合 – iOS デバイスごとに複数ユーザ

- パスコードをすぐに要求するように設定します。
- fmreauthenticate 拡張アクセス権を「fmreauthenticate0」に設定します。
- ユーザによるパスコードの入力および独自のアカウントを使用したログインを必須にします。

セキュリティのヒント

不正アクセスを制限するには次の操作を行います。

- **重要:** デバイスで iOS のデータ保護機能が有効になるようにパスコードを設定します。
- 無料の「iPad を探す」または「iPhone を探す」アプリケーションを使用します。デバイスで「リモートパスコードロック」および「リモートワイプ」機能を有効にします。
- Get (持続 ID) 関数を使用して、ソリューションにアクセスするデバイスを識別します。

メモ

- FileMaker Go では、IPv6 のファイル参照またはアドレスは使用できません。
- ホストからクライアントを終了するように指示があった場合に 30 秒間反応がないと、FileMaker Go はデータベースの終了を試行し、警告メッセージは閉じられます。
- デバイス上でファイルを修復することはできません。

SSL 証明書

FileMaker Go は次の FileMaker Server ルート証明書の設定に接続できます：

- FileMaker ルート証明書 (SSL が有効なサーバー)
- VeriSign
- GeoTrust
- GoDaddy
- Thawte
- Comodo